



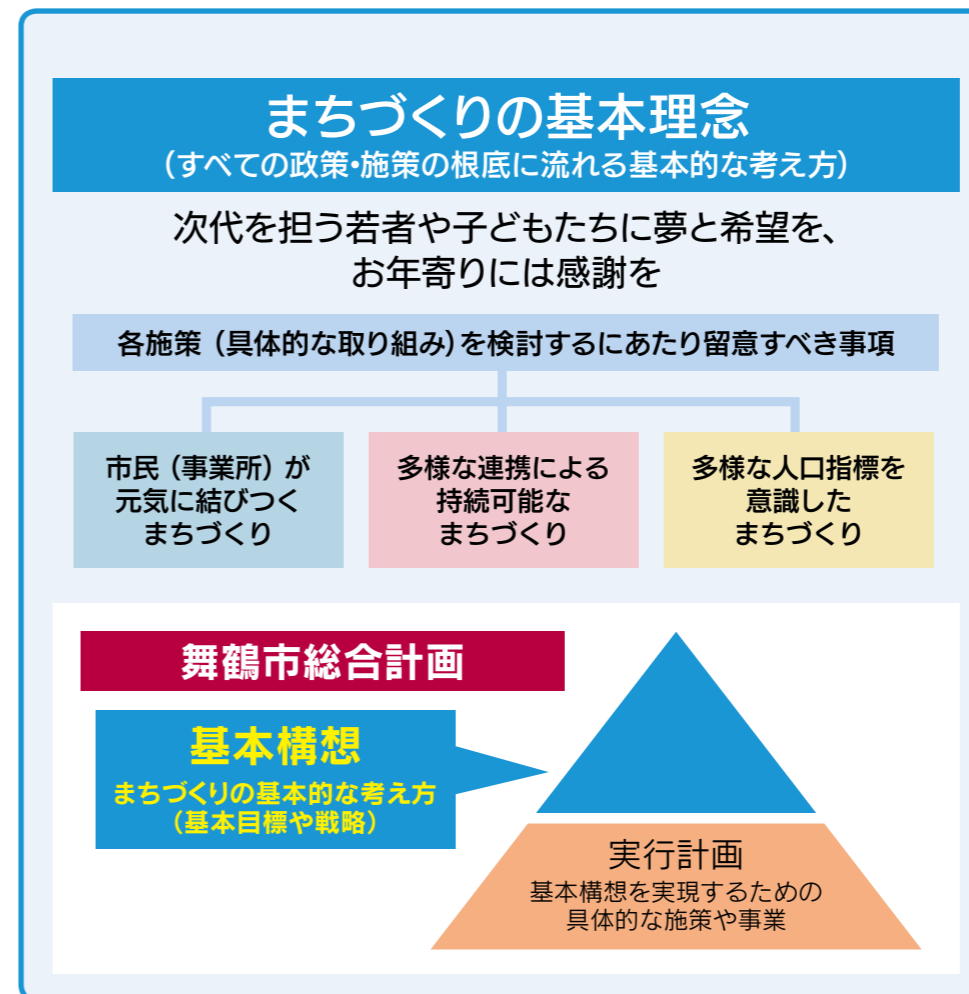
▲日本海側の海の玄関口、京都舞鶴港（五老ヶ岳公園より）



▲中学生まちづくり議会説明会で多々見市長の話を聞く中学生



▲「サロン de すとれつち」でいつもでも健康に過ごせるように



次期総合計画策定までを、年間を通してお伝えする「シリーズ市政の『今』特別編」。今回は、現行計画の取り組みのほか、総合計画審議会からの答申や市民ワークショップ・アンケートなどを通じて寄せられたご意見などを踏まえた次期計画に関する市の基本的な考え方をお伝えします。



私たちが取り巻く環境の変化

平成27年の国勢調査によると、大正9年の調査開始以来、日本全体の人口は初めて減少に転じました。本市も例外ではなく、今後も当面は平成2年の国勢調査以降続いている人口減少は続くといわれています。また、少子高齢化や働き手の不足、地方の過疎化などの課題が浮き彫りとなり、国では「地方消滅」という言葉が取り沙汰されています。

一方で、携帯電話やインターネットの普及など情報化社会は大きく進展し、私たちの暮らしは非常に便利で豊かになってきました。この20年から30年を振り返っても、メールやSNSを用いた連絡手段、インターネットでの情報収集や買い物など、社会が大きく様変わりしたように、これからの社会や私たちの生活もこれまで以上に早いスピードで変化していくといわれています。

元気なまちの実現に向けて

これからの社会は、あふれる情報を見つけ分析していた時代から、「IoT（自動車や家電などの身の回りのあらゆるものがインターネットに接続される）いわゆるモノのインターネットにより膨大なデータを集積し解析することができ、さまざまな知識や情報を効率的に共有するので、今までにない新たな発見や価値を生み出せるようになる」といわれています。また、人口知能「AI」で必要な情報が必要な時に提供されるようになり、介護ロボットや車の自動運転、農業のIoT化などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化などの課題を克服するなど、技術の進歩はこれまでに以上に社会に大きな影響を及ぼすといわれています。

このような社会・生活の変化や時代の潮流を念頭におきつつ、直面する地域課題の解決に向けたまちづくりを

実施、「元気なまち」の実現に向けて、市だけでなく市民や事業者の皆さんと一緒に、将来の舞鶴市における課題などについて、議論し有効な施策を検討する必要があります。

まちづくりの基本的な考え方

次期総合計画の策定では、右上図のまちづくりの基本理念「次代を担う若者や子どもたちに夢と希望を、お年寄りには感謝を」を全ての政策・施策の根底に流れる基本的な考え方とし、本市で生まれ育った子ども達が地域への愛着、誇りを持つ魅力あるまちづくり、お年寄りがいつまでも健康で自立し安心した生活が過ごせるよう、次の3点を心掛けたまちづくりを目指します。

◆市民（事業所）が元気に結びつくまちづくり

まちの主役は市民や地域、事業所であり、それぞれが活動し、連携し、結びつく元気なまちづくりを進めます。市は努力する市民・地域・事業所の活動を応援し、困っている市民をサポートする役割を担います。

◆多様な連携による持続可能なまちづくり

人口減少時代こそ選択と集中・分担と連携が重要で、京都府北部地域連携都市圏のような広域連携で取り組む地方創生や民間の資金・ノウハウの導入、民間主導といった官民連携のほか、大学などと連携する産学官など多様な連携によりさまざまな視点を持ってまちづくりを進めます。

◆多様な人口指標を意識したまちづくり

まちの活力は人口に比例します。この地域に住む「定住人口」の減少抑制をはじめ、市外からの観光客などの「交流人口」や舞鶴を選び住んでくれる「移住人口」、舞鶴を思う人「関係人口」の数などの多様な人口指標を意識し、これらの人々と一緒に協力することで施策を検討します。

これらの基本的な考え方を念頭に置き今後、基本構想を実現するための具体的な施策や事業などの実行計画の策定を進め、市民の皆さんと一緒に元気なまちづくりを進めていきます。